

2024年6月27日

株主の皆さまへ

株式会社京葉銀行

### 第118期定時株主総会 事前質問へのご回答について

平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社第118期定時株主総会開催に先立ち、多数のご質問・ご意見をお寄せいただきまして、誠にありがとうございました。

お寄せいただいたご質問・ご意見のうち、株主の皆さまのご関心の高いと思われる事項等について、以下のとおりご回答いたします。

株主の皆さまには、今後ともご支援賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

#### 記

質問 1	日銀の金融政策変更により金利が上昇した場合、業績への影響を説明してほしい。
回答	<p>国内金利上昇の場合、預金、貸出はもちろんのこと、有価証券運用、日銀預け金など、即ち調達コスト、運用収益への影響、さらには、保有債券の評価額や貸出信用コストへの影響が考えられます。</p> <p>預金・貸出の影響についてですが、利上げにより預金金利が上昇する一方、貸出は新規の貸出に加えて既存の貸出についても、基準となる短期プライムレートや住宅ローン変動金利の上昇により、資金収支のプラス影響が出るものと考えております。この際、即時に上昇する預金金利とタイムラグをもって上昇する貸出金利という性質上、短期的にはマイナスの影響が先行すると思われませんが、これは時間の経過により解消され、中長期的にはプラスの影響に転じるものと試算しております。</p> <p>これに加え、有価証券運用や日銀当座預金利息などの増収効果も見込まれます。</p> <p>こうした効果を試算した場合、2024年3月期のポートフォリオの残高を横ばいとし、2024年9月、0.5%に金利が上昇し、短期プライムレートも合理的な追随率で上昇した場合には、2025年3月期でプラスの26億円、現中期経営計画の最終年度となる2027年3月期ではプラス70億円の資金利益の増加影響と見込んでおります。</p> <p>一方で、保有債券の含み損の発生やご融資先の利払い増加による信用コストへの影響も想定されますので、アセットごとの適切なリスクコントロールには十分に留意してまいります。</p>

質問 2	次世代システムの開発状況、開発の遅延理由と遅延に対する考え方について説明してほしい。
回答	<p>次世代システムの開発に関しては、当初予定より開発期間を要しておりご心配をお掛けしています。</p> <p>銀行のシステムを取り巻く環境は、デジタル技術の革新や生成 A I の出現、またキャッシュレス化の進展など近年大きな変貌を遂げています。これらに対応すると共に、昨今の他社におけるシステム障害事例も踏まえ、安定稼働を最優先に検証期間を十分確保して開発を進めてきました。加えて開発期間中にコロナウィルスの大流行も重なり、結果、予定を上回る開発期間を要してしまいました。</p> <p>現在、ベンダー（製造元、販売供給元）の日立製作所と共同で 2025 年 1 月の稼働に向けて開発作業を進めており、既にベンダーによるプログラム製造の工程は完了し、テスト工程の終盤となっており、2025 年 1 月稼働に対して、問題なく進められています。</p> <p>なお、開発期間中も時代の変化に合わせた必要な開発は継続しており、お客さまの利便性を損なうことのないよう留意して参りました。</p> <p>引き続き、次世代システムの安定稼働に向け、開発を進めてまいりますので、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。</p>

以 上